

Platys

[プラティス]

KDU COMMUNICATION MAGAZINE

Vol.04
2022.7

広報誌タイトル
「Platys」の由来

医聖ヒポクラテスは、紀元前にギリシャのコス島のプラタナス(スズカケノキ)の木陰で弟子たちに医学・医術、医の倫理を説いたといわれ、本学にはプラタナスの木とコス島から運んだ巨石があります。プラタナスの語源はギリシャ語の「platys(広い)」であり、大きな葉や広がる枝に由来します。学生たちの豊かな成長と、九州歯科大学の繁栄を願い、「Platys」と命名しました。

特集 1

【対談 福岡県知事×九州歯科大学学長】

福岡県が目指す未来と
九州歯科大学が担う
役割について語り合う

福岡県知事

服部 誠太郎 × 西原 達次

公立大学法人九州歯科大学 理事長・学長

西原 達次 NISHIHARA TATSUJI

1952年生まれ。東京都出身。九州歯科大学歯学部卒。東京医科歯科大学大学院歯学研究所修了、歯学博士。国立予防衛生研究所(現:国立感染症研究所)口腔科学部歯周病室長を経て、1999年九州歯科大学教授に就任。2006年同理事・歯学部長、2012年より現職。

服部 誠太郎 HATTORI SEITARO

1954年生まれ。北九州市出身。中央大学法学部卒業後、1977年福岡県庁入庁。総務部私学学事振興局学事課長、財政課長、総務部次長、福祉労働部長などを経て、2011年副知事に就任。2021年より現職。

「人財」育成と、地域と連携する歯科医療

福岡県が目指す未来と九州歯科大学が担う役割について語り合う

2022年4月11日、福岡県庁にて、県知事・服部誠太郎氏と学長・西原達次の対談が行われ、県が掲げる目標や、本学の役割などについて情報を交換し、互いに深く共感しながら話が進められました。誰もが生き生きと健やかに暮らせる社会に向けて、歯科医療の重要性を再認識するとともに、全国唯一である公立の歯科大学として地域に貢献していくことを誓いました。

TALK THEME 1

福岡県の未来を担う「人財」の育成について

地域に貢献できる
歯科医療人を育てるために

学長 知事は、県政を進めるうえで、特に力を入れて取り組むチャレンジ項目の一つに「次代を担う『人財』の育成」を掲げておられます。「人財」育成について、知事のお考え、思いをお聞かせいただけますでしょうか。

知事 私が知事に就任して、ちょうど1年になります。昨年の選挙を通じて、またその後の県政を進めるにあたって、一番手に挙げているのが「人財」育成です。

例えば、北九州には最先端の技術を持っている企業があり、世界トップシェアのさまざまな製品を開発していますが、実際に技術や機械を使って新しいものを生み出しているのは、やっぱり人なんです。私は「人こそが宝だ」という思いがありまして、「財」の字を使った「人財」育成とし、これを進めていくことで、学業やスポーツ、芸術などいろいろな分野での成長を促していきたいと考えています。

学長 知事は、九州歯科大学に「どのような人材を育成してほしい」とお考えでしょうか。

知事 九州歯科大学は、長い歴史を持つ全国で唯一の公立の歯科大学です。これまでも多くの優れた歯科医療人を育て、世に送り出しておられると同時に、歯の健康づくりを通じた地域貢献にもいろいろと尽力されています。今後も、こうした歯科大学の取り組みに福岡県としても期待をしています。

学長 ありがとうございます。我々は平成18年度から公立大学法人として、設立団体である福岡県のご指導をいただきながら、今日に至っております。歯学部は全国に国立大学が

11、私立大学が17、そして公立大学は本学のみで、合計29あります。

公立大学の大事な役割は、やはり「地域に根差すこと」だと考えております。そのために、国家試験では高い合格率を維持しながら、より良き人材の育成に力を入れてきました。患者に寄り添える、患者の痛みを感じる歯科医療人の育成が、我々に求められていると思います。

地域の歯科医療をリードするような知識、技能、そして人格という三つを高い水準で備えた卒業生を送り出し、ご期待に応えられるよう努めてまいります。

「福岡県青少年プラン^{*1}」と
大学が担う人間教育

学長 令和4年度から、県は人材育成施策の基本となる「青少年プラン」を策定されましたが、このプランの特徴や大切にしていることをお聞かせいただけますか。

知事 今、我々の社会はまだコロナのパンデミックから抜け出せず、世界情勢も不安定な状況です。これから先の時代を見通していくことが、非常に難しいですね。

さらに大雨や地震などの自然災害もあり、福岡県では5年連続で豪雨災害を被っている状況です。こうした中で、若い人たちが生き抜いていくために、どんなことが必要なのか。それはやはり、自ら課題を見つけ、いろんなことを学びながら、主体的に物事を考え、課題の解決に向かって行動していく力をしっかり身に付けることだと思うのです。新しい「青少年プラン」では、この生き抜く力を育むために、学びや



体験、さまざまな分野の人たちとの交流を促進していきます。

私は高校生のときに、ある方から授けてもらった「自らの内にある無限の力を信じよ」という座右の銘があるんです。

この言葉がずっと心に残っており、今でも高校生の方とお会いすると、時々お話しています。すべての人は無限の可能性を持っています。その力に自らが気が付き、発揮していくことができるように、我々は支えていきたい。そして、青少年が世界に向けて羽ばたこうとするチャレンジを応援していきたい。そういう思いが「青少年プラン」の基本的な考え方となっています。

学長 知事は、「青少年プラン」の推進に向けて、県が設立している三公立大学法人に対し、今後どのような期待を寄せられていますか。

知事 福岡女子大学、福岡県立大学、そして九州歯科大学、それぞれに特徴があり、教育と研究に取り組んでおられます。それ

ぞれの大学の特徴や強みを生かして、人材育成に力を注いでいただきたいですね。九州歯科大学においては、先ほど学長がおっしゃっていた「地域に根差すこと」「人材の育成」をぜひお願いします。歯科医療を通して地域の方々とのコミュニケーションを図り、広い視点で健康の促進や地域の発展に力を発揮していただけるよう期待したいと思います。

学長 知事がおっしゃる「人材」育成は、まさに大学が高等教育機関としてやらねばならないことです。私が今年4月の入学式の式辞で述べた内容と、知事のお考えが重なる部分が多く、とても勇気づけられました。

文部科学省では「学びの3要素」を挙げております。第一歩として、教育を通じて知識と技能を高める。その次に、知識・技能の上に築かれる思考力、判断力、表現力を培う。そして三つ目の要素として、学びを人生や社会に生かすために主体性、多様性、協調性を養う。入学式では「歓迎の言葉」としてこれらを新入生に呼びかけ、人間性が磨かれた歯科医療人に成長すること、これらの力を育むことを願って伝えました。

また、本学はグローバル教育にも力を入れており、2019年までは姉妹校としてタイの3大学、台湾の3大学を軸に順調に展開、交流をしてきましたが、現在は海外に渡航できない状況となり、オンラインで工夫して行っています。いずれにしても、本学創立100周年の2014年に宣言した、「Think globally, act locally(グローバルな視点で考え、地域に根差して行動をする)」を、具体的な形として進めてまいりました。本学ならではの特徴ある学生が、これから地域で活躍してくれると期待しております。

※1. 福岡県青少年プラン

青少年の健全育成施策をより一層推進するため、福岡県が策定した「福岡県青少年健全育成総合計画(青少年プラン)」。

計画実施は2022(令和4)年度から5年間。

学長 県民の「歯と口の健康づくり」を進めるうえで、やはり歯周病の治療や予防は欠かせないものだと思います。我々も地域において、歯科医院を介して治療や予防措置を行うことはもちろんのこと、もう少し踏み込んで、産業と結びつくような形も模索してきました。

中小企業が多い北九州市では、法定健診として医科健診は通常行われていても、歯科健診は10年ごとの節目に行うという企業が大半です。クリニックに行く時間のない働き盛りの方々にも検査を受けていただくために、複数の企業と組み、北九州市歯科医師会や各区の歯科医師会と一緒に、3年の年月をかけて企業と開発してきた「歯周病リスク検査」を試行してきました。これが福岡県の保健事業の歯周病予防研修会の内容に取り入れられることになり、行政に結びつく研究が開くような状態になってきています。

これまでではデータの裏付けがなかったため、歯科医師は「糖尿病は歯周病と関係があるから、歯周病を治さないと糖尿病が悪化すると言われていましたよ」と、深く踏み込んだ言い方はできませんでした。患者さんも「ホント?」という気持ちになり、自覚を持って歯を守っていただくのが難しい面があったのですが、「歯周病リスク検査」を使えば、歯周病に罹患した人の全身のデータとの相関が見られるようになります。今後はデータの裏付けをベースに患者さんにアプローチができるように、調査研究をさらに展開させたいと思っています。

今回、この「歯周病リスク検査」を県で導入する事業をきっかけに、「福岡県発!」の歯周病検査としてここ数年で社会に出したいと考えています。全国にも展開できれば、これはまさに公立大学たる所以にもつながると思っています。

知事 それは素晴らしいですね。歯周病の恐ろしさや、歯周病と糖尿病との関わりは、以前から私もお聞きしていました。確かに今回の検査システムでデータの分析ができるというのは有意義なことだと思います。

学長 それに向けて現在、基盤を固めているところです。

知事 「福岡県発!」として、ぜひ進めていただきたいですね。

地域の歯科医療の中核として

学長 県民の「歯と口の健康づくり」を進めるうえで、知事が九州歯科大学に求める役割、期待することについてお聞かせください。

知事 九州歯科大学は大学であり、まさに知の拠点であるわけですから、大学としての機能である教育の強化も大事ですが、同時に公立大学としての役割を踏まえ、地域貢献に福



岡県としては大きな期待をしています。歯と口の健康は、ひいては全身の健康を保つことにつながりますので、ぜひ県民の皆さんの理解を深めることに力をお借りしたい。

また、歯科大学を卒業して開業されている歯科医師や歯科衛生士の方々が、もう一度学び直すリカレント教育についてもぜひ継続して行っていただくことで、さらに地域の歯科医療の向上を図れると思います。

さらに、高齢化が進む中、地域包括ケアシステムにおいても歯科口腔保健分野に取り組むことになっていきますので、地域の歯科医療の中核としてシステムの一翼を担っていただければと思います。

学長 昨年12月、北九州商工会議所、人間ドックや職場健診を展開している西日本産業衛生会、本学の3者で行ったプレス発表では、6,000人の就業者の医科データと歯科データを結合し、心筋梗塞、糖尿病、認知症との関係について発信することを宣言しました。今後、さまざまな解析を深めることで、医科疾患と歯科疾患の連携が図れるようになるため、歯科医師は医科のデータをしっかりと踏まえて、安心安全な歯科医療に努めなければなりません。

現在、本学ではDEMOP^{※2}において、開業されている歯科医師を対象に、全身疾患を持った方の歯科医療の教育を展開しているところです。すでに二度受講していただいた先生もおられ、意識レベルの変化を感じております。さらにこの活動を、歯科衛生士の方々にも広げたいと考えております。

地域包括ケアにおいては、歯科医師が医科について理解すると同時に、連携できる情報提供を数値で示すことが大事

TALK THEME 2

地域医療と九州歯科大学の役割について

歯周病リスク検査を開発し 歯と口の健康づくりを支える

知事 福岡県では、平成31年に「福岡県歯科口腔保健推進計画(第2次)～歯っぴいすこやか推進計画～」を策定し、歯と口の健康についての正しい知識の普及に努めてきました。健康診断や保健指導に関することが、計画には記載されています。

私は「歯周病」の専門的知識はありませんが、全身疾患につながっていると言われてきました。健康を維持、増進するためには、「歯と口の健康づくり」を改めて県民の皆さんに認識をしていただき、自ら取り組んでいただくことを呼びかけることが大切なことと思いい、「ふくおか健康づくり県民運動」の中で、啓発を進めております。これからも九州歯科大学のご協力をいただきながら、「歯と口の健康づくり」に取り組んでいきたいと思いい。



です。例えば、血圧では基準値が定められていますが、歯科検査の場合、数値で表すものがほとんどないのが現状です。

歯周病に関しては、歯周ポケットの深さを測る検査においても、先生方の力加減によって3ミリとか4ミリとか変わってくるので、客観的なデータとは言えません。歯周病リスク検査では、炎症の度合いや病原性細菌の数などを測り、医科のデータと比較できる仕立てになっていますので、広く活用していくことができます。また、介護施設からも「口の中をしっかりと

と評価できるようなツールがほしい」という声が出ていますので、歯科医院の診療とリンクできるような形での応用も可能となり、認知症と歯周病との関係についても明らかにできるものと考えています。

※2. DEMCOP

2016年に九州歯科大学が開設した「口腔保健・健康長寿推進センター(DEMCOP:デムコップ)」。開業している歯科医師等を対象に、摂食嚥下障がいや全身疾患のある患者さんの口腔機能向上に関する再教育を行う全国初の機関。

TALK THEME 3

ワンヘルスの推進について

人と動物の健康、環境が調和した社会づくり

学長 知事は、新たな挑戦として、さらに「ワンヘルスの推進」を掲げられていますが、内容についてお聞かせいただけますか。

知事 我々が今苦しめられているCOVID-19をはじめ、SARS、MERS、エボラ出血熱、あるいはマダニによる感染症、これらはすべて動物由来の人獣共通感染症であります。人間がかかる感染症の約6割が、人獣共通感染症であると言われてます。こうしたことを前提に、やはり人の健康、動物の健康、そしてもう一つ環境の健全性、この三つを一つのものとして捉えて、一体的に守っていくことがワンヘルスの考え方になります。

家畜や愛玩動物だけではなく、野生動物を通したウイルスの転移がなぜ起こるかという、生息域が近接してきている

からなんですね。例えば、自然環境が荒れて、山や森が荒れると食べ物なくなり、インシムも生活できないから、やむを得ず山を下り、人里へ出没するようになります。

だから環境を守ることは、人間と動物の健康を守っていくうえでとても大切なことです。このワンヘルスというのは国連のSDGsのゴールにも関わっていくものであり、私は「ワンヘルスの推進」を通して、人々の命と健康を守ると同時に、福岡県をワンヘルスの世界的な先進地にしたいと考えています。

私がこのような考えに至った動機は、2016年に北九州市で行われたワンヘルスに関する国際会議のお手伝いをしたことがきっかけです。このとき、日本医師会と日本獣医師会の会長からお話を伺い、新たなウイルスの感染症によって、いつパンデミックが起こってもおかしくない状況であるとお聞きしました。COVID-19のような人獣共通感染症に対抗してい

くためにも、医学、獣医学と連携し、ワンヘルスの考え方で取り組んでいくのは非常に重要なことです。

学長 県が目指すワンヘルスの推進において、本学もお役に立てればと思います。私は以前、歯周病の研究者として国立感染症研究所で13年間勤務していたとき、よく獣医科学部の部長から「ペットも歯周病になるんだよね」と言われていました。それで今回、歯周病リスク検査キットの開発にあたって、ペットについて調べたところ、獣医の先生方は自費治療で麻酔をして歯石を取るなどして、歯周病の治療をしていることがわかりました。やはり検査がないんですね。それで共同研究をしているグループと一緒に、犬用、猫用の歯周病診断ができる検査ツールに注目していることを、日本獣医師会の蔵内会長にもご案内させていただきました。こうした形でも歯科疾患との関係はすぐにでもお手伝いできると思います。

また、人間の体も動物の体も一緒に、口の中の細菌のフローラ^{※3}と腸内フローラが一定の状態を保たれていると健康が維持されます。口から入る食物が腸に行くわけですから、口の中の細菌とフローラについての研究もきわめて大事です。こうした研究からわかっていくことは、食品の開発にもつながり、多面的な要素を持っているのではないのでしょうか。県設立の三公立大学法人が知恵を絞り、福岡女子大学の栄養学、福岡県立大学の看護学、本学の歯学、そして医師と獣医師のグループと連携することで、福岡発のワンヘルスが促進され、学問としても成立するのではないかと考えております。

※3. フローラ

細菌の群れ(細菌叢)。顕微鏡でのぞくと、多種多様な細菌がお花畑(フローラ)のように壁に隙間なく張り付いた状態。

全国初のワンヘルスセンターと九州歯科大学が共に歩む未来

知事 福岡県には日本で唯一、ワンヘルスの推進条例があり、

服部福岡県知事と西原九州歯科大学学長との対談を終えて

この企画は私が広報に携わった当初より実現したい企画でした。対談をお引き受けいただいた服部知事と準備にご尽力いただいた福岡県庁の政策課と秘書室の方々にお礼申し上げます。対談に先立ち、知事より少年時代に歯科大生とグラウンドで遊んだ思い出をお聞きし感慨深く思いました。知事が述べられた「次代を担う人材育成」は、九州歯科大学憲章の「次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療を提供できる人材の育成」と共通する部分があります。本学は若者のもつ無限の可能性への気づきと挑戦をサポートし、地域の健康づくりに貢献していきます。

九州歯科大学 副学長 木尾 哲朗

これに基づいて今後いろんな取り組みを進めてまいります。

太宰府市にある老朽化した保健環境研究所(保環研)の移転改築を検討していた際、みやま市から2023年3月に閉校する大学の建物と敷地を無償で県にいただけることになりました。土地が非常に広く、建物もまだ十分に使えるので、保環研を移転し、必要な研究棟等は増築していきます。併せて、筑後市にある家畜保健衛生所をみやま市に移転し、愛玩・展示・野生動物も含めた総合的な機能を追加し、「動物保健衛生所(仮称)」として開設します。この「保健環境研究所」と「動物保健衛生所(仮称)」との間で情報の共有、検査、研究、開発などの有機的な連携を図っていくことにより、ワンヘルス実践の中核拠点として、全国初となる「ワンヘルスセンター」の整備を進めていくこととしています。先ほど学長が言われた三大学連携の研究などもできるよう、将来的には考えていきたいです。

さらに言えば、学長が勤務されていた国立感染症研究所(感染研)のサテライトを、ぜひ九州につくってもらいたいと九州地方知事会として国に要望しているところです。この流れを踏まえて、保環研と感染研との共同研究を今年度からスタートすることになりました。これがアジア新興・人獣共通感染症センターに向けた一歩にもなると期待しております。

学長 感染研を九州にというのは、素敵なアイデアですね。口は、さまざまなモノが入るなかで、ウイルスも入ってくるわけですので、一つの感染経路になります。そういうことでは、口腔内の環境を健康な状態に維持することは大切なことですので、ぜひ我々にも協力させていただきたいと思っております。本日は有意義なお話を伺うことができ、とてもうれしく思っております。お忙しい中、貴重なお時間をいただきありがとうございました。



Topics

大学関連情報

1月19日(水)

鱒見進一教授と清水博史教授の最終講義が開催されました

令和3年度末で御退官となる鱒見進一教授と清水博史教授の最終講義が、九州歯科大学の講堂ホールにて開催されました。教職員、大学院生をはじめとした多くの方々にご参加をいただきました。

鱒見教授は「写真で綴る九州歯科大学47年間の思い出」、清水教授は「接着と生体材料と未来の歯科医療」をテーマとして講義を開催されました。

最終講義を迎えられた鱒見教授、清水教授におかれましては、長年にわたり九州歯科大学にご尽力をいただき誠にありがとうございました。先生方の今後のご健勝とますますのご活躍を祈念いたします。



鱒見進一教授



清水博史教授

3月25日(金)

大学院学位記授与式を挙行了しました

九州歯科大学講堂のホールにおいて、学長、大学院歯学研究科長の出席のもと、体調確認やマスク着用を徹底し、COVID-19感染症対策に万全を期した上で大学院学位記授与式を挙行了しました。

今回学位を授与されたのは、修士4名、博士24名の計28名です。

西原学長から、代表者に対し学位記が手渡された後、式辞がありました。



学位記授与の様子

3月10日(木)

九州歯科大学学長賞授与式並びに企業表彰伝達式を開催しました

九州歯科大学学長賞授与式並びに企業表彰伝達式を開催しました。学長賞は学生として模範とするに足る者として、学業成績、課外活動、ボランティア活動等において、特に優秀な学生または団体を表彰しています。

また、企業からの表彰状等の伝達を行いました。受賞者には、西原学長から表彰状と記念品がそれぞれ手渡され、受賞者を代表し歯学科6年小田原愛里さんが挨拶を述べました。



代表挨拶
歯学科 小田原 愛里さん



授与式の様子

4月6日(水)

令和4年度 登院式を挙行了しました

歯学科5年生87名と口腔保健学科3年生26名の登院式が、九州歯科大学の講堂ホールで開催されました。

登院式では西原学長挨拶の後、川元附属病院長から登院実習にあたり訓辞が述べられました。

続いて学生の代表が社会貢献や人格の形成、技術の向上などを誓う宣誓が行われました。



川元附属病院長からの訓辞



登院式の様子

Topics

メディア出演・掲載情報

2月19日(土)・6月4日(土)発行

北九州市内の家庭に配布される地域情報紙「リビング北九州」にて本学の教員が情報提供しました

公立の歯科大学である本学の役割として地域に根差し、「歯と口の健康」の情報を発信するツールとして、本学の教員が情報提供に協力しました。

2022年2月19日発行号、「春の食材を使ったレシピ紹介コーナー」では、木尾哲朗副学長が、食事の際「しっかりかむ」ことの大切さや、体に良い効果を発信。2022年6月4日発行号では、「目指せ歯ッピーライフ」をテーマに、中島啓介副学長が身近な歯と口に関するアドバイスを、それぞれわかりやすく解説しています。



リビング北九州
2月19日発行号



リビング北九州
6月4日発行号

4月17日(日)放送

本学の「歯のベンチ」についてテレビで取材を受けました

本学の講堂横に設置している歯のベンチについて、TVQ九州放送(テレQ)にて放送されている「ブルーリバーの望むところだ!」より取材を受け、番組内の「北九州これ知ってる? ツアー」において九州歯科大学の葉桜(歯桜)が紹介されました。

取材には福岡県を中心に活躍されていますブルーリバーのお二人と杉山39さんが訪れ、歯のベンチを中心とした取材とともに本学学生の松尾さんがインタビューを受けました。

【番組URL】<https://www.tvq.co.jp/variety/nozomutokoroda/>



撮影終了後の記念撮影(左から杉山39さん、ブルーリバーの川原さん、黒石助教、船原講師、松尾さん、ブルーリバーの青木さん、木尾副学長)



取材の場所となった桜の木と歯のベンチ

番組HP



6月1日(水)発行

「へるすあっぷ21」の掲載について

働く人の健康管理・健康づくり情報誌「へるすあっぷ21」の2022年6月号において、「働く世代への歯科健診の普及に向けて」というテーマで九州歯科大学の寄附講座における取り組みが紹介されました。

歯科疾患の予防には定期的な歯科健診の受診が欠かせないものですが、働く世代の歯科健診受診率は高くないのが現状です。この世代への歯科健診の普及に向けて、職域における歯科健診の拡大に向けた課題や取り組み、「舌ぬぐい液」による歯周病リスク検査によりリスクを数値化して客観的に示すことなど、寄附講座による取り組みが掲載されています。

【URL】<https://www.sociohealth.co.jp/magazines/healthup21/202206-no452.html>



関連
サイト



Close-up

大学行事のお知らせ

令和4年 3月11日(金)

令和3年度 第70回卒業式を挙行了しました

令和3年度は歯学科89名、口腔保健学科23名、合計112名が新たな門出を迎えました。今年の卒業式は新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、昨年度と同様、3密(密閉、密集、密接)を回避して、規模を縮小して執り行いました。

卒業証書・学位記は、小田原愛里さん(歯学科)と那須光里さん(口腔保健学科)の二人がそれぞれの学科を代表し、西原学長から授与されました。

歯学科の加藤創さんの卒業生宣誓に続き、西原学長が卒業生に向けて式辞を述べました。コロナ禍においても、真摯に学んで卒業の日を迎えたことを祝い、これから歯科医療人として活

動していくうえで、大事にしてほしいことや期待することを伝えました。

また、ご出席された服部誠太郎知事代理の生嶋亮介副知事、秋田章二県議会議長代理の片岡誠二文教委員会委員長から、ご祝辞をいただきました。

その後、在学生を代表して落窪嶺さん(歯学科5年生)が送辞を述べ、最後に卒業生を代表して、河本拓也さん(歯学科)、安永奈々さん(口腔保健学科)の二人が、周りの方々への感謝と「一医療人として、人々の健康の一助となれるよう今後も精進していく」との決意を述べて閉会しました。

卒業式 学長式辞 (抜粋)

これから口腔保健医療活動に従事するにあたり、「宿命に挑み、夢見て行い、結果を出す」ことを胸に抱き、歯科医療人としての第一歩を力強く踏み出すことを願っています。

大学が提唱しているThink globally,act locallyという言葉をお忘れずに、「世界規模で考え、足元から行動せよ」という精神をもって、第一歩を力強く踏み出してください。

結びに、チャールズ・ダーウィンが「種の起源」で述べている言葉を紹介します。曰く、「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一、生き残るのは変化できる者である」。

卒業後、次世代のニューリーダーとして、皆さんが生涯を通じて常に前向きに学習し、そして変化していくことを切に願い、私からの式辞とします。



九州歯科大学
学長 西原 達次



卒業証書・学位記授与
歯学科代表 小田原 愛里さん



卒業証書・学位記授与
口腔保健学科代表 那須 光里さん



卒業生代表宣誓
歯学科 加藤 創さん



県知事祝辞(生嶋副知事)



県議会議長祝辞(片岡文教委員会委員長)



在学生代表送辞
歯学科代表 落窪 嶺さん



卒業生代表謝辞 歯学科 河本 拓也さん
口腔保健学科 安永 奈々さん



Close-up

大学行事のお知らせ

令和4年 4月5日(火)

令和4年度 第73回大学・第56回大学院の入学式を挙行了しました

穏やかな春の陽気に恵まれたなか、令和4年度の入学式が行われました。今年度は、歯学部歯学科95名、口腔保健学科25名、大学院26名の新生を迎えました。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するために規模と時間を縮小し、来賓各位ならびに保護者の方々にはご臨席の案内を控えさせていただき、会場の換気等の対策を実施して式を執り行いました。

西原学長の式辞では、新入生への歓迎の思い、本学の基本理念と教育目標などを伝え、生涯学習を通じて社会に貢献する

人材となるよう、歯科医療人としての成長を期待する言葉を贈りました。

続いて、服部誠太郎福岡県知事の代理として出席された江口勝副知事、秋田章二福岡県議会議長の代理として出席された仁戸田元氣副議長のお二方より、祝辞をいただきました。

式の最後には、学部入学生を代表して長濱澄斗さん(歯学科)、古賀綾奈さん(口腔保健学科)、大学院入学生を代表して赤間愛美さん(口腔保健学)が、「学則を堅く守り、日々精進します」と宣誓を行いました。

入学式 学長式辞 (抜粋)

今後、歯科医療に求められる全身の健康増進に寄与するという視点に立ち、歯科医師・歯科衛生士によるオーラルヘルスチーム活動の担い手として社会で貢献することを願っています。歯科医療界のフロントランナーとして、多方面で活躍していきましょう。

新入生の皆さんに、著名な科学者インシュタインの名言を紹介します。曰く、「挫折を経験したことがない者は、何も

新しいことに挑戦したことが無いということだ」。

さらに、本日、この言葉とともに、私から入学生諸君に、「宿命に挑み、使命を果たし、夢をつなぐ」という言葉を贈り、学問に対して常に真摯に、そして生涯学習を通じて社会に貢献する人材となるまで、夢に向かって前向きに取り組むことを心から念願して、私の式辞とします。



九州歯科大学
学長 西原 達次



入学許可



県知事祝辞(江口副知事)



県議会議長祝辞(仁戸田副議長)



学部入学生代表宣誓 長濱 澄斗さん(歯学科)、古賀 綾奈さん(口腔保健学科)



大学院入学生代表宣誓 赤間 愛美さん(口腔保健学)



大学からのお知らせ

令和3年度学長賞受賞者（第19回）

九州歯科大学におきましては、学生として模範とするに足る者を学長賞として表彰しております。表彰は、右記に該当する学生等に対して行うものとしております。

- ① 学業成績が特に優秀な学生
- ② 課外活動において特に優秀な成績を修めた学生個人や学生を構成員とする団体
- ③ ボランティア活動等の社会活動の功績により、表彰に値すると認められる学生やサークル等グループ

① 学業成績が特に優秀な学生

【歯学科】 (学年は令和3年度の学年)

氏名	学年	選考理由
土井源太	2年	1年次、2年次のGPAが1位
建部 姫羅々	4年	3年次、4年次のGPAが1位
小田原 愛里	6年	6年間のGPAが1位

【口腔保健学科】 (学年は令和3年度の学年)

氏名	学年	選考理由
錦織 望々香	2年	1年次、2年次のGPAが1位
那須 光里	4年	4年間のGPAが1位

※GPA(Grade Point Average)とは、各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値のことを指します。



学長賞(卒業生学業成績優秀者)



学長賞(在学生学業成績優秀者)

令和3年度に退職を迎えた教授からのメッセージ

本学の益々のご発展を祈念して

私は1975年に大学29期生として入学し、学生時代はBlue Notesでドラムを担当していました。

卒業後は大学院、助手、講師、助教授となり、2003年に教授を拝命し、2022年3月に定年退職を迎えることとなりました。

東医歯大とUCLAでの研修を除き47年間、実に私の人生の70%を九州歯大で生活して参りました。

最大の思い出は、創立百周年事業で百周年記念事業担当理事として参画できたことや百年史の発刊に携われたことです。

私は九州歯科大学が大好きです。本学が今後とも益々発展していくことを祈念して私からのメッセージといたします。



鱒見 進一

九州歯科大学名誉教授
九州歯科大学同窓会副会長
日本顎関節学会理事長

お世話になりました

九州歯科大学で現役教員生活最後の8年間を過ごさせていただきました。在籍した期間は短かったですが、快適な仕事ができました。大変満足しています。

この場をお借りして、後進の先生方と学生さんにお勧めしたいことがふたつあります。それは今日明日と100年後の未来像を両方考えることと、通説にとらわれ過ぎないことです。目先のことばかり考えたり、はじめからバイアスがかかっているような良い仕事はできません。

九州歯科大学には良い臨床医と良い教員を多数輩出されますことを祈念しております。ありがとうございました。



清水 博史

学校法人福岡学園
福岡歯科大学客員教授
前九州歯科大学
口腔機能学講座
生体材料学分野教授

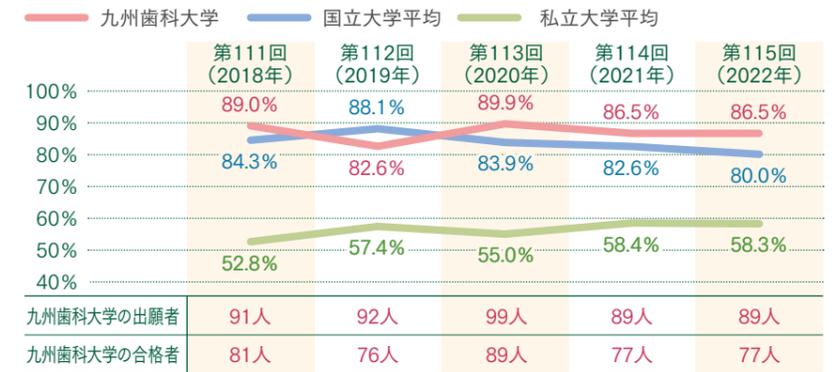
大学からのお知らせ

歯科医師国家試験合格率の推移

歯科医師国家試験に合格すると歯科医師免許が与えられ、はじめて歯科医師としての第一歩を踏み出します。少子高齢化に伴い、今後の国民の医療や介護の需要の増加が見込まれる中、疾病構造等の変化に伴う歯科医療に対するニーズも大きく変化して、歯科医学教育と共に国家試験の出題基準も変遷しています。

右のグラフに示すように、最近5年間の歯科医師国家試験の新卒出願者数に対する合格率は、私立大学の平均は60%未満が続き大変厳しい状況となっておりますが、本学の2022年の合格率は86.5%で、2022年の国立大学平均の80.0%を上回っています。2021年以前の4年間においても国立大学の平均を2019年の結果を除き、常に上回る高い合格率を維持しています。

■ 歯科医師国家試験合格率の推移(出願者比 過去5年間)



注:厚生労働省の報道発表資料による『学校別合格者状況』においては、『合格率』は受験者数に対する合格者数の割合で示されています。本学では、出願者数と受験者数は同一ですが、大学によっては出願者数と実際に受験をした人数に大きな乖離がありますので、ここでは、大学教育の実態をより正確に反映させるため、新規卒業生の出願者数に対する合格者数の割合を『合格率』として算出しております。

日本学術振興会 科学研究費新規採択率

本学の2021年度の日本学術振興会科学研究費新規採択率は39.2%でした。また、過去10年間の平均採択率は36.4%となっております。本学の2021年度科研費採択率は、新規応募件数が50件以上の国内の研究機関・大学(292施設)のうち、全国16位となっております。この結果は、本学の教員・研究者が教育・臨床業務をこなしながら、研究活動を行っている結果ということがわかります。毎年日本学術振興会では、採択率・配分件数等上位30機関を発表しており、本学は下の表に示すようにほとんどの年度で上位30機関に名前を連ねています。外部資金の獲得は、本学の中期目標にも挙げられている項目ですので、今後も高い採択率の維持を目指していただきたいと思います。

年度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
採択率%	48.7	43.3	36.8	39.4	16.7	40.3	42.7	31.1	39.2
順位	2	6	15	13	—	8	10	—	16

日本学術振興会公開資料より —は30位以下

令和4年度 法人、大学の役員、部局長の体制について

令和4年度の法人並びに大学の役員、部局長について以下のとおり紹介いたします。

【公立大学法人 九州歯科大学役員】

理事長	西原 達次	九州歯科大学学長
副理事長	久藤 元	
常務理事	八木 信次	九州歯科大学事務局長
理事(非常勤)	津田 純嗣	北九州商工会議所 会頭
理事(非常勤)	松永 守央	北九州産業学術推進機構 理事長
理事	川元 龍夫	九州歯科大学 附属病院長
理事	栗野 秀慈	九州歯科大学 歯学部長
監事	荒牧 啓一	小倉東総合法律事務所 弁護士
監事	松木 摩耶子	松木公認会計士事務所 公認会計士

(任期は令和6年3月31日まで ※監事を除く)

【九州歯科大学部局長】

学 学 部 長	西原 達次
歯 学 部 長	栗野 秀慈
事 務 局 長	八木 信次
副学長兼附属図書館長	中島 啓介
副 学 長	木尾 哲朗
附 属 病 院 長	川元 龍夫
大学院歯学研究科長	瀬田 祐司

(任期は令和6年3月31日まで)



おうちのお話

「赤ちゃんの離乳食期は、
大人になってからも
大事なんです！」

赤ちゃんを授かった保護者から「離乳食はどのようにすすめたら良いの?」とよく尋ねられます。赤ちゃんは、生まれてすぐに母乳もしくはミルクを飲んで育ちますが、乳歯が生える前の生後5〜6か月頃から離乳食を始めます。

実は、赤ちゃんには本来母乳以外の物を誤飲しないよう、口に入ってきた固形物を舌で押し出す反射(舌突出反射)が備わっています。この反射が消えたら離乳食のスタートです。初めはドロドロした調理形態のもの、次に舌と上あごでつぶせるくらいの硬さ、そして奥歯に相当する歯茎でつぶせる硬さへと、徐々にステップアップさせていきます。

上手く離乳食を進めることができると、唇を閉じて上手に飲み込むことができるようになります。大人になつてからの正しく「食べること・飲み込むこと」につながっていきます。

離乳のプロセスって、将来のための大切な「食事の練習」時期なんですね。

赤ちゃんのお口の発達を見ると、その素晴らしさに驚かされます。



九州歯科大学歯学部 口腔機能発達学分野

講師 渡辺 幸嗣

ご報告

九州歯科大学基金のお知らせ

九州歯科大学基金へ多大な貢献をいただいたことを、ご報告します。

本学の「新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成する」などをはじめとする、数々の教育研究目標を達成するために、「国際的口腔保健活動のフロントランナー育成」事業を現在展開しております。

その事業を支援する目的として、九州歯科大学基金を創設しており、令和4年5月31日までに、皆さまからいただきました寄附の申し込み状況は、法人・団体様等より129件で寄附額8,433,428円、個人様より194件で寄附額5,575,020円となりました。日頃より温かいご支援をいただき、心より御礼申し上げますとともに、ここに報告いたします。

本基金による「国際的口腔保健活動のフロントランナー育成」事業では、具体的に右記のような取り組みを行ってまいります。

取り組み

1. グローバルな視野をもった医療人育成支援
海外の大学との連携強化および国際交流活動の推進、学生国際交流活動推進プログラムの運用支援
2. 学生・大学院生・留学生の奨学金の確保
大学における奨学金の効率的かつ実効的な運用支援。大学が主体的に運営するための基金の確保
3. 大学主導のリカレント教育の強化
あらたな医療技術普及活動・歯科医療人再教育活動の推進支援

ご寄附に関する窓口 公立大学法人 九州歯科大学 九州歯科大学基金事務局(担当:総務課)
〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1
TEL:093-582-1131(内線7211) FAX:093-582-6000

詳しくは、HPをご確認ください。



編集後記

Platys4号は、服部福岡県知事と西原理事長に本学の役割やワンヘルスについて対談して頂きました。また、本学の活動をご覧頂けるようにイベントやメディア関係の記事を掲載し、特に卒業式や入学式での学生さんの写真を増やしました。コロナ禍で参加をご遠慮頂きました保護者の方々に式典の雰囲気伝われば幸いです。今後は、学生アンバサダーの協力を得て、大学生活を感じることができるよう企画を取り上げたいと思います。ご期待ください。

九州歯科大学 副学長 木尾 哲朗

【表紙写真について】

表紙の写真は、本学の敷地内にあるスズカケの樹と巨石を正面から撮影したものです。この巨石は、「医学の父」と仰がれているヒポクラテスの故郷、ギリシャのコス島から運び込みました。ヒポクラテスは、「スズカケの樹」の下で医学徒に医学を教え、医療のあり方を説いたと伝えられています。この由緒あるスズカケの葉は、本学のシンボルマークとしても使用されています。

九州歯科大学広報誌「Platys [プラティス]」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

✉ e-mail:kikaku@kyu-dent.ac.jp

本誌についてのご意見・ご感想をメールにてお寄せください。いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。

九州歯科大学の情報は、Web上でもご確認いただけます。

大学HP



大学広報

